

シリーズ

DV被害者支援を始めて（全五回）

第四回「加害者更生プログラムの内容」

NPO法人女性・人権支援センター

ステップ 理事長

栗原 加代美

—— 前回はDV加害者の特徴についてお話ししました。今回は「加害者更生プログラム」の内容についてお伝えしたいと思います。——

加害者更生プログラムについて

この内容は加害者だけではなく、全ての方々に、良い人間関係を築く大切な情報だと思えます。それは私たち全ての人に加害性、被害性が存在すると考えるからです。もちろん、私にもあります。

加害者には週一回のペースで、一年間に計52回通っていただきます。今はコロナのため、Zoomでプログラムを行っています。日本全国はもちろん、アジアからも、15名ほどのの方々に参加しています。その中で夫婦参加は「1割」、女性加害者「1割」も共に学んでいます。週に7つのプログラムがあり、それぞれのクラスに20名ほどの方が参加しています。

選択理論の学びで8割の方が怒らなくなり、パートナーと温かな家庭を再構築しています。2割の変わらない方は、パートナーが悪いとの考えから、どうしても抜け出せません。学びを実践できないからです。



更生プログラムの目標

更生プログラムには5つの目標があります。

- 1 被害者意識から加害者意識への変化
- 2 パートナーを尊重し、対等な関係性で愛を築く
- 3 怒りをコントロールする
- 4 怒りが出た時の表現の仕方を学ぶ
- 5 自立のあり方を知る

1 被害者意識から加害者意識への変化

参加者の8割ほどの方々は、パートナーが加害者で自分は被害者だと思いながら、ステップの門をくぐります。パートナーが悪い、自分は悪くない。まさに責任転嫁ですね。しかし「**全ての行動は、自分の選択の結果である、DVは支配の関係性であり、行為ではない**…」と伝えると、加害者である認識へと軸足が変わっていきます。そこで初めて、自分変化しようとの動機付けが芽生えてきます。ここから更生へのスタートが切られます。

2 パートナーを尊重し

対等な関係性で愛を築く

自分の方が正しい、すぐれていると加害者は思っています。その結果、パートナーへの教育と思い、左記の7つの悪い習慣を使って、パートナーを変えようとしています。パートナーを見下さず、過去と相手は変えられないと伝えると、どんなに無駄なことをしてきたのかと参加者は後悔します。変えられるのは自分の考えと行為だと伝えます。